

授業科目名	高齢者看護学臨地実習Ⅱ(リハビリ期)	担当教員	◎青山美紀子、川上裕子
必修	開講年次：3年後期	単位：3単位	授業形態：臨地実習 135時間

### 【授業概要】

リハビリテーション回復期にある生活機能障害を持つ高齢者の看護実践に焦点をおく。リハビリ期にある高齢者の包括的なアセスメントから対象者の健康レベルとニーズに応じた看護を実践する。心身の機能、構造に何らかの障害を有し、日々の生活や社会生活に支障をきたした高齢者とその家族が、障害を抱えながらもその人らしい生活を構築していく過程を支援するための課題を見出す。学生は、医療チームの一員として、リハビリ期にある対象者のための看護師の役割を明確にする。

### 【授業目的・目標】

1. リハビリ期にある高齢者の包括的なアセスメントができる。
2. リハビリ期にある高齢者と家族のニーズを踏まえ、健康増進、疾病予防に向けたセルフケア能力の向上を目指した看護過程が展開できる。
3. リハビリテーションチームの中の看護師の役割を理解した行動ができる。
4. 高齢者と家族を取り巻く保健・医療・福祉システムの現状を知り、関係者との協働、連携について表現できる。

### 【履修条件】

「基礎看護学臨地実習Ⅰ・Ⅱ」、「高齢者看護学概論」「高齢者看護援助論」を修得していること

### 【授業計画】

実習1日目・オリエンテーション(実習病院・施設の概要)情報収集

実習2日目～8日目・病院実習：受持ち患者の看護過程の展開(関連図を基に看護問題を抽出し計画・実施・評価)を行う。リハビリテーション看護の役割を理解し発表する。

実習9日目～14日目・通所実習：施設内での看護師の役割とケア内容等を体験する。レクリエーションを企画・実施・評価し全体発表で共有する。

・NST見学(病院)から得た学びをカンファレンスで深めレポートにまとめる。

実習15日目・実習まとめ 面接評価

### 【教科書】

指定なし

### 【参考書】

高齢者看護学概論や高齢者看護援助論で使用した教科書、参考書、資料

山田律子他編(2016)生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図、医学書院

### 【評価方法・評価基準】

実習目標への到達度による評価 70%、事前学習 10%、態度・行動 10%、カンファレンス参画度 10%

### 【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：実習オリエンテーション時に課題を提示する。看護技術に関しては、基礎看護学及び高齢者看護援助論で学んだ内容を、安全・安楽に実施できるように事前学習をする。

事後学習：1日の実習終了後に各自が学んだ内容を振り返り

### 【教育目標(必須要素)との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅲ. 根拠に基づいた看護実践能力、Ⅴ. 多職種から成り立つ医療チームにおけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅵ. ヘルスプロモーションと予防に関する知識と実践能力、Ⅸ. あらゆる対象に向けた包括的な看護実践能力と関連する。

### 【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

実習に関わる記録については4年次前期に学生個人に返却する。(掲示により連絡)

### 【備考】

- ・高齢者看護援助論で学習した「アセスメント」「関連図」について理解しておく。
- ・高齢者看護学臨地実習要項にて詳細を確認すること。